

6. 北陸（地域別調査機関：一般財団法人北陸経済研究所）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連 (北陸)	良くなる やや良くなる	-	-
		一般小売店〔精肉〕 (店長)	・忙しい日が多く感じる。10月は台風の影響もそれほど受けることなく、良かったように思う。何事もなければ、このような良い傾向は続くと思う。
		一般小売店〔鮮魚〕 (従業員)	・弊社は北陸三県、滋賀、中京を取り込んでいるが、特に金沢は売上増加が見込まれている。新幹線バブルの様相も垣間見える。
		百貨店(営業担当)	・前年よりも気温が低くなるのが早かったことから、秋冬物の羽織物やコートの動きが早まっているように感じる。単価上昇につながる商材が多く、このまま11月まで続くと思われている。
		乗用車販売店(役員)	・10月後半には、今流行のコンパクトミニバンの新型車が発売の予定である。また専売車種のメーカーからの配送関係も良い方向に向かうようなので、10月以降の下期は販売増等を期待している。
		高級レストラン(スタッフ)	・北陸新幹線開業に向けての盛り上がりを感じられる。明らかな人手不足が見込まれており、働く側が売手市場のため個人消費にも力強さを感じられる。
		タクシー運転手	・これから買物客や、忘・新年会などでお酒を飲む機会が増えることから、やや良くなると思う。
		通信会社(営業担当)	・人気のあるスマートフォン機種在庫状況が改善され、入荷が増えれば更に販売加速につながると思われる。
		通信会社(役員)	・テレビ、PCの買換え時期でもあり、継続して問い合わせが増えると予想する。
		競輪場(職員)	・来月のビッグレース、また年末のグランプリレースに向けて、一番盛り上がる時期に突入する。
	住宅販売会社(経営者)	・消費税増税予定前の駆け込み需要が予想される。	
	住宅販売会社(従業員)	・広告などを掲載すると、具体的に土地や建物を検討しているお客様が動き出すと考えられる。	
	変わらない	商店街(代表者)	・天候にも多分に影響されるので、予想しにくい。
		商店街(代表者)	・メーカーも商品を作っておらず、従来通りの品ぞろえが難しい店が増えている。客の選択肢も減り、売上増は厳しいと予想される。
		商店街(代表者)	・買物をする一般の消費者には、この先景気が良くなるという実感がなく、漠然とした生活不安があるのではないかと。お金の余裕が欲しいのは、皆さん同じ思いだが、余裕のある人も将来に備えるため、あまりお金を使わないのではないだろうか。先行きの経済不安、少子高齢化の問題、社会保障の低下、雇用不安など、不安材料はきりが無い。
		一般小売店〔事務用品〕(店員)	・時期的に商品の動きはあると思うが、必要性の高い商品以外は買い控えは続き、全体を通してプラスになるようなことは期待できない。
		百貨店(売場主任)	・北陸新幹線等の景気の底上げには、まだしばらく時間がかかりそうである。また、大幅なボーナスアップ等の収入面での好条件の情報に乏しい。
		百貨店(営業担当)	・例年であれば、この時期は年末年始の旅行が需要のひとつのキーワードになってくる。国内旅行はそうでもないと思うが、エボラ熱などの世情不安から、海外関係についてはやはり減少気味である。したがって、それに関連するファッションやグッズなどの売上が、例年より減少するのではないかと予想を立てている。
		スーパー(店長)	・ここ数か月の流れをみると、この2～3か月先も、今の状況と数値的にも変わらないのではないかと感じる。
スーパー(店長)		・夏場から秋に変わっても、台風の影響などもあり、客数的にも現状は厳しい状況が続いている。今後年末までの傾向は、あまり期待できない状況と言える。	
スーパー(総務担当)		・来客数が前年を下回る状況が続いているため、景気が良くなるとは考えづらい。	
スーパー(総務担当)	・7～8月のお盆も昨年並みで推移したことから、クリスマスや年末においても昨年並みの推移が想定される。北陸新幹線開通に期待する部分もあるが、影響は少ないと思われる。		

スーパー（統括）	・小売業は世の中の景気などに左右される面もある。その中で安倍総理が、消費税率を10%にするかしないかという決断が、一番大きく起因すると思っている。現段階では未定ということだが、それが年末くらいまでという情報の中でどうなるかということと、もうひとつはイスラム国を含めた中東関係の情勢によって、原油価格などのエネルギー関係の価格がどう動くかによって変わると思う。
コンビニ（経営者）	・売上の中でも、店売りのひきたてコーヒーの販売量に関しては増加しているが、単価が下がり100円からの価格になることから、100円だけ支払って購入する客も多く、売上単価は上昇していない。たばこも全く回復しておらず、明るさが見えてきていない。
コンビニ（経営者）	・クリスマスケーキの予約など、年末商戦のセールなどにはやや期待しているが、日常の業務状況は良くなる要素はないだろう。これ以上の落ち込みもないとは思っている。
衣料品専門店（経営者）	・近所の奥さんから聞いた話だが、水曜日はまた別のスーパー、ビールはどこそこのスーパー、肉はどこ、魚はどこというように、安売りの日と安いスーパーをグルグル回っているそうである。また、その日は入出が違うそうである。ほかの話では、自動車での外出を控えている人もいるとのことである。みんな生活防衛に大わらわである。
衣料品専門店（総括）	・原価の高騰等で、商品単価が上がっているため、今までよりも購買率が下がっている。
家電量販店（店長）	・販売数量は前年に対して若干改善してはいるが、来客数が継続して減少している。客単価が上がっていることから、購入目的を持った客しか来店してなく、目的がなく話題の商品を見に来る客が減少している。
乗用車販売店（経営者）	・今までと違っているのは、軽自動車の販売台数の落ち込みが大きいことである。販売総量の維持が難しくなっている。
乗用車販売店（従業員）	・年末発売の新型車に期待しているが、雪が降る季節に向けて来客数の伸び悩みが考えられる。
自動車備品販売店（従業員）	・スタッドレスタイヤ販売の動きは例年から比較しても鈍い。天候に左右されるが極力、出費を抑えたい傾向で回復の兆しが見えない。
住関連専門店（店員）	・単価の伸び悩みと、受注件数の減少が要因に考えられる。食料品やガソリン代の高騰による家計への負担増も要因のひとつで、ここ数か月、単価の減少が著しく見てとれる。高額品が売れない。
その他小売〔ショッピングセンター〕	・台風の影響で野菜相場高騰が続いていたが、ようやく平年並に落ち着いてきた。ただし、ガソリン代など生活物価高が続き、生活者には厳しい状態が続く。
その他小売〔ショッピングセンター〕（統括）	・冬のボーナス、クリスマス商戦に期待はするが、販売量が上向きになる具体的な理由が見当たらない。
スナック（経営者）	・これまでと変わらず職種によって、ますます二極化になるだろう。いろいろな国内外の変化次第でも影響がある。
観光型旅館（経営者）	・年内の予約状況は前年並みに推移しているが、1月以降の予約は下回っている。3月の北陸新幹線開業を見込み、出控えが心配である。
都市型ホテル（スタッフ）	・消費税10%への増税が決定し、景気回復基調の雰囲気は腰折れしないか懸念している。
旅行代理店（従業員）	・特定の観光地や特定の曜日に集中し、観光地の優勝劣敗がより顕著化している。一部の売上増加では、全体の底上げにつながっていかない。
タクシー運転手	・相変わらず、夜の繁華街は静かである。
通信会社（営業担当）	・新機種スマートフォンが発売され、来客数が増え、販売量も一時的に増加したが、それはお祭りのようなもので、この先、景気よくなる要素が見当たらない。契約数も去年と同じ数字で推移している。
通信会社（役員）	・消費者の積極的な家計支出に向け、冬季賞与の支給額拡大に期待するが、当地域では大きな改善は期待できない。
通信会社（店舗統括）	・今のところ良くなる材料も悪くなる材料も見いだせない。
その他レジャー施設（職員）	・施設見学、問い合わせは引き続きある程度数が多い。
美容室（経営者）	・このところの政治、経済、国際情勢のニュースがいずれも明るさを感じさせないので景気も良くなるとは思えない。
住宅販売会社（従業員）	・消費税率10%への引上げに向けた判断材料である景気動向は、上げる環境にはなく今後どうなるか不透明である。そうした状況下において商談件数アップ、駆け込み需要につながるインパクトはない。

		住宅販売会社（従業員）	・展示場来場数が増えないこと、消費税アップを心配する客の声があまり多くなく駆け込み需要が見込めないことから、今後契約が増える雰囲気を感じない。
やや悪くなる		一般小売店〔書籍〕（従業員）	・年末に向かうが明るい兆しはない。物価の上昇などマイナスの要素だけがある現状である。
		コンビニ（店舗管理）	・スタッフの新規採用が難しく、ベース時給もアップせざるを得ない状況であり、利益の圧迫になる。
		衣料品専門店（経営者）	・好転の兆しが全くなく、店の存続も心配なくらい泥沼化しているように思われる。
		家電量販店（店長）	・消費税増税前の駆け込み需要や、パソコンの代表的なOSの旧バージョンサポート終了による駆け込み需要の反動が来ている。
		その他専門店〔酒〕（経営者）	・発泡酒ではなくその他の雑酒の税率を、発泡酒並みの税率にしようということになり、これは足を引っばる形になると思う。酒はたばこ同様、簡単に税率を上げられてしまうので、そついったことがすぐに影響してくると思う。
		一般レストラン（店長）	・今月の状態や今後の予約を考えると厳しい。
		一般レストラン（統括）	・業種問わず、値上げをせざるを得ない状況が発生し、客が買物をする際の取捨選択の目がより厳しくなる。外食は取捨選択と利用回数減の懸念がある。
		観光型旅館（スタッフ）	・9月の予約仕入は伸びたが、9月、10月の泊まりの予約が伸びなかった。11月以降は大きな団体の申込があり予約が伸びた。予約保有状況は10月93.0%、11月90.5%、12月98.6%と引き続き予約状況は弱い。
		旅行代理店（従業員）	・消費税率が更に10%になる恐れが影響する。
		通信会社（職員）	・業界内での自由競争が本格化すると見込まれる。
	テーマパーク（職員）	・前年同期比で向こう3か月の予約状況をみると、インパウンド客はまずまず回復傾向にあるものの、国内客が団体、個人を問わず予約状況が鈍い状況にある。バス代金の値上がりや消費税増税の影響が大きいのではないかと思う。	
悪くなる		コンビニ（店長）	・価格表示の問題、県内での競合他社増加、飲料などの150円を上回る中途半端な価格などの理由から現在も前年割れとなっているが、それに加えて過去の実績から、冬は季節的に前年比好調な年でも伸び率が鈍り、前年割れの年はより一層悪くなりやすい傾向がある。現在、クリスマスケーキの予約も前年同週と比較して15%程度少ない状況である。
		住宅販売会社（従業員）	・物価の上昇及び、個人消費の改善も見込まれない状況で、今後ますます一棟あたりの単価が減っていくものと思われる。
企業動向関連 (北陸)	良くなる	-	-
	やや良くなる	化学工業（総務担当）	・今後、受注量が増加予定である。
		建設業（経営者）	・年末工期や来年3月の年度末工期の工事の完成に向けて、技術者不足、技能者不足、交通誘導員の確保困難、砕石などの資材確保の困難、骨材やアスファルト合材を運搬するためのダンプトラックの確保困難など大変厳しい環境の中で、休日返上での多忙を極める状況が続くが、工事が完成することで利益は増加するだろう。
	変わらない	食料品製造業（役員）	・為替の影響、消費税率の引上げの影響等々、外部環境の変化がなければすぐに変わる要因が見つからない状況である。
		繊維工業（経営者）	・円安傾向で輸出関連では多少動きがあるが、内需については勢いに欠ける。アベノミクス効果がなかなか地方の中小企業に届いていない。
		繊維工業（経営者）	・今年は天候不順の日が非常に多かったことから、来春物については非常に慎重である。
		プラスチック製品製造業（企画担当）	・来年の10月に向けて半年前くらいから、消費税増税の好影響が出るかもしれないが、3か月後や半年後くらいのところでは、今と同じような状態が続いているとみている。
		金属製品製造業（経営者）	・2～3か月先の分の受注の入り具合をみて、そのように思った。
		精密機械器具製造業（経営者）	・更なる競争激化、円安による材料費の値上げ等、一部の勝ち組以外は更に生産量を落としているメーカーが増えているように思える。
		建設業（総務担当）	・高水準にあった工事発注量が、徐々に低下傾向に変化しており、先行きの見通しがやや不透明になってきた。
輸送業（配車担当）		・今後更なる消費税アップの動きの状況で、景気が急によくなるとは考えにくい状況と感ぜられる。	
通信業（営業担当）	・販売数はそんなには変動がないが、大口案件がポツポツあり、単価が上がっている。		

	金融業（融資担当）	・10%への消費税増税を決断する時期に向けた経済対策の期待はあるものの、エボラ熱を含めた国際情勢の不安もあり、なかなか景気は上昇しにくいのではないかと考える。
	金融業（融資担当）	・企業の資金需要は一定程度はあるようで銀行貸出も伸びてはいるものの、金利過当競争の側面も感じられ、本格的に資金需要が高まっていないように感じる。
	不動産業（経営者）	・期待感が少しずつ出てきた感じだったが、その期待通りにはなかなか出てこない。意外に話が少ない。
	司法書士	・一時活発だった太陽光発電関係の土地取引は終了しており、それに代わるような大きな事業関係の動きがみられない。
やや悪くなる	一般機械器具製造業（経理担当）	・国内自動車の販売が回復が遅く、徐々に部品メーカーなどの業績にも影響が出てくるのではないかと。
	一般機械器具製造業（総務担当）	・国内、欧米とも積極的な設備投資が一段落した感があるので、大幅な受注は期待できないと予測している。
	新聞販売店〔広告〕（従業員）	・5か月連続前年割れとなっている。業種問わずチラシ出稿量増が一向に見えてこない。住宅リフォーム、建築、不動産関連のみ、やや前年を超えてきている状況である。
	税理士（所長）	・目先、値下げという心理がまだ強い。この心理を払拭しないと、景気は良くなると思う。公共工事の人工単価の引上げや発注単価の引上げも必要になってくると思う。たくさん出すのではなく、マンパワーの価値を認める社会づくりをしていかないと給料が上がらない。悪い循環で、給料が下がりまたデフレという危険があり、心配である。
悪くなる	-	-
雇用 関連	良くなる	-
	やや良くなる	-
(北陸)	求人情報誌製作会社（編集者）	・北陸新幹線開通に伴い雇用のニーズが高くなると予想される。
	変わらない	-
	人材派遣会社（役員）	・ギリギリの社員でやりくりし、やむを得ずの欠員対策でスキルの高い人材を求められるので、手配が厳しい。
	人材派遣会社（社員）	・年末に向け、短期、単発の仕事の求人、求職者数は昨年度とほぼ同様な傾向の見込みである。
	新聞社〔求人広告〕（担当者）	・求人広告数は前月から今月にかけて減少しているが、一旦はどこかで落ち着くのではないかと考えている。
	職業安定所（職員）	・新規求人の増加幅が少なくなってきたように感じているが、有効求人数の増加幅は変化がないため、しばらく現在の状況が続くと思われる。
	職業安定所（職員）	・依然として燃料費、材料費等の高騰に加え、先行きが見通せないとの事業主の不安の声が聞かれる。
	職業安定所（職員）	・県内の主要産業である製造業の求人意欲が、やや落ち込んでいる。
	民間職業紹介機関（経営者）	・消費動向をみても消費は抑え気味なので、景気を押し上げるような材料が少ない。
やや悪くなる	-	-
悪くなる	-	-